

平成18年度 施策評価シート

総合計画における位置付け等

平成18年11月2日記入

基本目標	ゆとりある みどり豊かな環境共生都市をめざして	施策コード	24110
政策名(章)	第4章 美しいまちなみと良好な居住環境を創造します	評価担当部	環境保全部
基本施策名(節名)	第1節 魅力ある都市景観の形成	評価担当課	みどり対策課
施策名	自然景観や歴史的景観の保全	課長名	隅河内 司

1 施策の目的・概要(目的はわかりやすく記入)

市内に残された貴重な緑地、河川などの自然景観の保全に努めるとともに、地域の特性を生かしたまちなみづくりを進める。木もれびの森や横山丘陵緑地、相模川沿岸の斜面緑地などを近郊緑地特別保全地区として指定している。また、みどりの協会が実施する「花のまちづくり・みどりいっぱい運動」により緑化活動の支援を行い、市民によるうつくしいまちなみづくりを進めている。

2 事業費・人員

年度	平成14年度(決算)	平成17年度(決算)	増減の主な理由
事業費		83,596	・「特別保全地区維持管理費」の予算を同種の事業である「緑地等維持管理費」に整理再編したことにより、特別保全地区維持管理経費のほかに緑地等維持管理経費を含めた額となったための増
人件費		29,785	
市民一人あたりの事業費	80	170	
合計	49,480	113,381	

*人件費は、職員一人あたり H14:839万円、H17:805万円として算定。人口は、61.6万人(H15.4.1現在) 66.7万人(H18.4.1現在)とした。

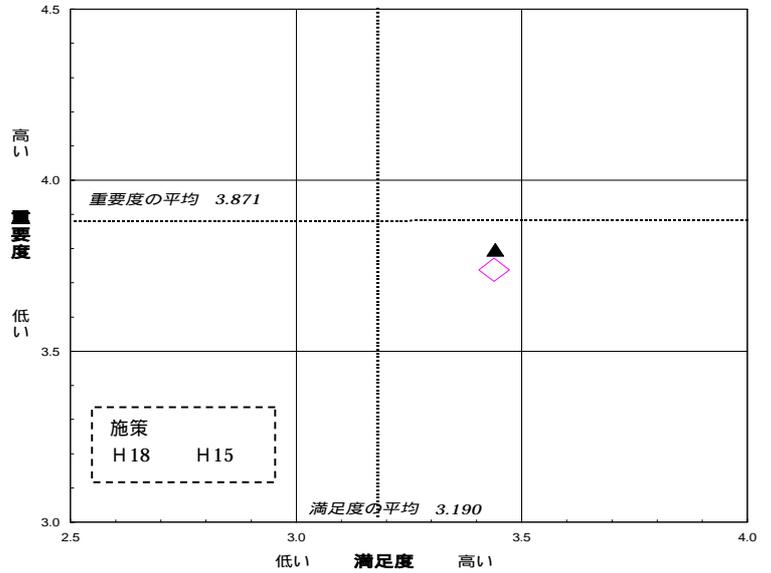
3 成果・活動指標

	指標名	指標の基準値の定義	基準値(単位)	基準年度
指標1	緑地保全地区等指定率(%)	地権者合意面積 ÷ 指定予定地面積 × 100 (%)		H17
指標2	市民緑化事業の花苗等交付数(株)	「花のまちづくり・みどりいっぱい運動」による花苗等の交付数 H17:49,251株	49,251株	H17
指標3				
指標4				
指標5				

	H17目標値/実績値	中間年度	中間年度の目標値	最終年度	最終年度の目標値	目標値の考え方(根拠)
指標1	0.0 / 0.0	19	8.5ha	21	8.5ha	みどりの基本計画の目標(H27年:約200ha、現在180.9ha) 今後の指定予定目標面積
達成率	%					
指標2	40,000 / 49,251	19	45,000株	21	45,000株	ISOの項目別プログラムにみどりの協会が実施する「花のまちづくり・みどりいっぱい運動」による花苗等の交付目標数を明示。年45,000株
達成率	123.1 %					
指標3						
達成率						
指標4						
達成率						
指標5						
達成率						

4 市民満足度調査結果(平成18年度実施分)

この施策の満足度は3.439で51施策の中で2番目。
 重要度は3.738で34番目である。
 改善要望度は - 0.2699で46番目である。
 年齢別にみると、満足度は50歳代以上で高く、40歳代がもっとも低くなっている。
 重要度は50歳代以上で高く、40歳代がもっとも低くなっている。
 前回調査と比較すると、満足度、重要度とも施策の順位に大きな違いはみられない。
 満足度の順位では、全ての年代で、前回調査と大きな違いはみられない。
 重要度の順位では、50歳代で前回調査より上がり、70歳以上で大幅に下がっている。



5 1次評価(3つの視点から評価を行う)

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	それぞれの視点に対して評価の具体的根拠	1次評価
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	④ 2 1	木もれびの森や横山丘陵緑地・相模川沿い緑地などを近郊緑地特別保全地区等として180.9ha指定したことにより、これらの自然景観については恒久的な保全が図られている。また、市民緑化事業については、交付団体及び交付件数ともに増えてきており、市民の手による都市緑化が着実に進められてきている(H15:142団体、47,588株 H17:184団体、49,251株)。	B
効率性	最少経費で最大効果が得られる事業構成となっている	4 ② 1	指定緑地や相模川などの景観に係る維持管理については、できる限り市民ボランティアとの協働により効率的な管理を進めている。また、市民植樹事業については、平成15年度にみどりの協会の「花のまちづくり・みどりいっぱい運動」と事業統合し、市民の手による都市緑化が推進できるように窓口の一本化を図った。	
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立って事業展開している	4 ② 1	市民満足度調査による満足度は51施策中2番目、重要度は34番目であり、平均値と比較して、満足度が高く、重要度が低い結果となっている。また、「街路樹のあるまちづくり」により、一部道路が市民から募集して決めた愛称で親しまれるなど、街並みに対する市民の愛着が深まっている。	
合計		8	評価結果に基づく区分(4項目の合計点数による) A(12から10点) B(9から5点) C(4点以下)	

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

6 課題と解決策(現状または、評価結果から)

課題	当施策は満足度に関しては51施策中2番目と高いが、重要度は34番目と低くなっており、施策の重要性が市民に理解されていない。
解決策	都市における緑化は、環境形成や景観演出の他にヒートアイランド現象の緩和などの役割を担っており、その重要性を施策やPRにより市民に訴えていく必要がある。

7 2次評価及び意見(1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入)

指標1は17年度の達成度を示す指標とはならず、指標2だけで施策の成果を表すことは難しい状況である。今後は施策目的に適合した指標の設定を行う必要がある。	2次評価 B
---	-----------

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

8 3次評価及び意見(評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入)

	3次評価
--	------

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

